

日本国内における2021年の出生児数が81万1604人と統計開始以来最少となったことから、少子化の加速が社会問題となっていますが、同時に晩婚化や晩産化も進んでおり、子どもを出産する際の母親の平均年齢も上昇しています

## 生涯現役をめざして できることから はじめました



238

# 不妊の現状と治療

性の場合も加齢により、不妊症のカップルの増加や妊娠時の母体リスクや出生児の染色体異常が増加することが知られています。女性における卵子の数は思春期から生殖適齢期に

も治療が行われている国です。これまでは自費診療で行われ、また治療時の年齢が高いことも問題となっていました。2022年4月より保険診療の適用となりました。

◇ ◇  
西澤産婦人科クリニックは、飯田下伊那地域で唯一、不妊・不育症治療を担ってくださっている産婦人科医療機関です。不妊治療は複数回や長期にわたる通院が必要となり、身近に通える医療機関があることは心強いことです。

は30-50万個程存在しますが、37歳くらいまでに2万個程に、閉経時期の51歳までには1000個程にまで減少します。また、加齢による異常な受精卵の割合も上昇します。男性

であるのに対し、20代後半でおよそ9%、30代前半では15%、30代後半で30%、40歳以上では60%以上となると考えられています。

生殖補助医療を受けるカップル数は年々増加しており、日本は世界の中で最も

（40歳未満は6回、40歳以上43歳未満3回）

西澤産婦人科クリニック

飯田市の不妊治療に対する助成や相談は、保健センターで行っています。お気軽にお問い合わせください。（飯田市役所 保健課 永田）